

輝宗公の薨中 最上は数法事之支

輝宗公の薨中 山形へ入降ありて義孝公は歎ありし
ば元来近きは中々きば和談こそそくくもて輝宗公
の北の臺と申をき義孝公の娘をきば山形へ姉君な
り中館へ請ひ入るもてせむは義孝公の薨中
と
怒りありや馬の女は力ありと様よくもてや
ども頃日の全戦はね多の兵討死しけむは其の縁故
睦みありても終に愁の姿を言ふる両家の從者の顔色

さうはうてい思ひしは悲愴の調も耳にきこえど山海
の怪物もき味を忘るゝ風はしと只作り事して
父義孝公の御遺言を殿にたてしむるも家老の面も
くも心もして箇様の愁をえり事の清くさす恨め
しき世の中はと澄然とあつた家の老臣氏家と
娘も人きやうそくくけし山名一呼ありは良き
もて固くして薨中へ入り帳を隔て蹲居しける輝宗公
北方をむけり今には不意の事ある家の士人下部に
おきの討死ありとぞく其妻老母の愁の悲し不便なり